

晩秋の週末11月12日(土)、大阪市及び羽曳野市において、関西慶應寮和会第10回定例懇談会が、初めて参加された松本OB、三浦OBを始めとして、19名の出席者のもと開催されました。

<参加者> 敬称略 (19名：部分参加も含む)

相本 琢郎 (S41法)	酒井 克己 (S42法)	中矢 隆雄 (S47政)
松尾 哲雄 (S47経)	三角 竜二 (S49工)	鎌田 誠 (S51法)
青嶋 義晴 (S52工)	西村 元秀 (S53商)	袖岡 稔 (S55商)
阪本 光宏 (S61商)	井内 達彦 (H04商)	兵藤 公治 (H10理)
脇田 圭吾 (H12総)	宮崎 博 (H16経)	柿塚 悠 (H24理)
松本 泰幸 (H24理)	三浦 司 (H24理)	原 宗一郎 (H24総)
横山 尚明 (H25理)		



写真① あべのハルカス会議室で説明を聞く

I 第10回定例懇談会

【第1部】 あべのハルカス 及び 河内ブドウワイナリー工場見学 (19名) 12:50~18:00

今回は、阿倍野にそびえる日本一の超高層ビル「あべのハルカス」のバックヤード(エネルギー供給設備)とアルコール企画第三弾として大阪名産「河内ブドウ」のワイナリー工場を見学しました。

1. あべのハルカス バックヤード見学

賑わうビル内を素通りして直行したのが、34階会議室。そこで電源設備や冷暖房設備の説明を受けました。(写真①)大規模な設備にも関わらず、僅か5名で60階建てのビル全体を管理しているとのことでした。

その後、地下と15階にある設備を見学。普段はなかなか見る事の出来ない場所とあって、興味深々で説明を聞きました。

何より驚いたのは、残飯処理をするためのバイオ発電設備。レストランから出た残飯はすべてここで処理されるとのことで、社会に認められるためには、環境対応が不可欠であると再認識しました。



あべのハルカス バックヤード(Webより抜粋)

2. ワイナリー見学・試飲会

次に電車で向かったのが、羽曳野市にある河内ワイナリーです。到着するとすぐにブドウ園に案内してもらいましたが、既にシーズンが終わり、ブドウは既に無く残念でした。その中で、棚から吊り下げる栽培形態だけでなく、生垣状の畑も見ることが出来、勉強になりました。

次はワイナリー工場に移動。発酵中の樽や最新のブドウ絞り機が所狭しと並べられている中で、スパークリングワインの製法についての説明を聞くことが出来ました。(写真②)

その後店舗の2階でワインの試飲会が有りましたが、そこは元寮生。スパークリング、白、赤、梅酒、ジュース、それぞれ2~3種類ずつありましたが、余すところなく全種類美味しくいただきました。(写真③、④)

【第2部】平成28年度 関西慶應寮和会総会（18名）18:00~18:15

その後、大阪天王寺にある酒井OB行きつけサロン「登高賦(とこうふ)」で、関西慶應寮和会総会及び懇親会を開催しました。

塾歌斉唱の後、青嶋義晴幹事局長の司会で総会が開催され、最初に阪本光宏事務局長補佐から、第Ⅲ期のうち、平成28年1月1日から平成28年12月31日までの事業について報告がありました。続いて、同じく阪本光宏会計担当から、第Ⅲ期のうち、平成28年1月1日から平成28年12月31日までの収支について報告がありました。

【第3部】懇親会（18名）18:15~20:00

松尾会長のご挨拶の後、酒井OBの乾杯で、お待ちかねの懇親会が開催されました。話題は何と言っても、河内ワイナリーのことに集中し、酒蔵(月桂冠 第3回)、ビール工場(サントリー 第8回)に引き続いての今回の企画は大当たりだと思いました。

今回初参加の松本OBや三浦OBの挨拶もあり、大いに座が盛り上がりました。最後に、若き血を全員で熱唱しお開きとし、「登高賦」の前で、全員写真を撮り(写真⑤)、名残惜しく散会しました。

(定例懇談会記者:兵藤公治)



写真② ワイナリー工場見学



写真③ ワイナリーで試飲会①



写真④ ワイナリーで試飲会②



写真⑤ 宴の終わりに全員集合

Ⅱ 由良豊一さんご逝去のお知らせ

関西慶應寮和会創立の主要メンバーであり、又初代会長として4年間、多大の貢献をされた由良さんは、本年初めから療養中でしたが、10月26日、満73歳にて永眠されました。ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

由良産商会長等の要職につき多忙ながら、その温厚篤実な人柄で関西慶應寮和会をここまで牽引して頂いた事は感謝に堪えません。「単に懐古主義的な集まりとせず何かを学べる集まりにする」と言われた由良さんの意思を今後とも引き継いでいきたいと思いをします。



写真⑥ 第1回定例懇談会で講話をされる由良さん
(2012年9月8日)

主題: <由良エアロネットワーク>で関西中小企業が
航空機部品産業参入に挑戦

Ⅲ 寮和会総会に出席して

10月15日(土)に、記者自身2回目で久しぶりになりますが、日吉寮で開催された寮和会総会に松尾さんと出席しました。(12時～15時)

総会に先立ち、寮和会会長:吉武博士(エネルギー科学)から、記念講演がありました。(写真⑦)

【講題】エネルギーの海上輸送とシーレーンの確保

前半は、世界の海運業の中での日本の位置付けとその重要性
後半は、世界の主要なチョークポイント(シーレーン防衛において、重要な航路が集結している海域:海峡、運河)の各々の規模と重要性、及び、中国の南シナ海への進出・海賊など近年の海運業のリスクについての言及が有りました。

本講演は、吉武博士の長年のガス会社勤務のご経験と大学での研究によるものであり、グローバルでタイムリーな内容は記者にとっても大変勉強になりました。寮生も熱心に拝聴しており、生きた勉強になっていることと思います。

このようにOBから寮生に対して、社会で得た知識や考え方を寮生の成長に役立ててもらうことこそ、何ものにも換え難い日吉寮に対する貢献であると痛感しました。

関西慶應寮和会は、地理的に日吉から離れており、寮生とのつながりは持ち難いですが、設立趣意書にもあるように、今後は寮生との絆づくりを何らかの形で行い貢献に繋げていく必要があると感じました。

総会では、平成27年度寮和会会計報告及び平成28年度上期会計報告、次いで日吉寄宿舍80周年記念誌の発行(発刊予定:2017年3月)についての提案が有り、其々承認されました。

総会終了後は、寮生の皆さんも交え、懇親会を同会場で開催。吉武会長のご挨拶に引き続き、松尾さんからもご挨拶が有りました。(写真⑧)記者も多くの寮生と話が出来、しばし30数年前にタイムスリップして楽しい時間を持つことが出来ました。



写真⑦ 吉武博士から御講演



写真⑧ 懇親会 松尾さんから御挨拶

その後、寮和会幹事の懇親会を行うため日吉の街に繰り出しました。(まだ3時過ぎで、繰り出すには早すぎる時刻でしたが)

記者の総会出席の目的は、日ごろの広報活動のお礼を担当幹事の方に言うことと、広報活動についての意見交換をすることが目的だったのですが、懇親会の場で、<Webの更なる活用>など有意義な意見交換をすることが出来ました。

最後に、今後の東西での寮和会活動推進についての互いの健闘を誓い合い散会としました。

IV OFF-TIME

今回は、新幹事の柿塚OB(H24理)にインタビューしました。柿塚OBは、国立大学の博士課程に在籍、研究生活の合間に参加してもらっている関西慶應寮和会期待の学生さんです。なお今回の定例懇談会は、柿塚OBの紹介でH24年卒の若手が二名新たに参加して頂きました。

○柿塚さんのお話

小学生の頃から自転車が好きで、母親のお下がりのロードバイクにずっと乗っていました。大学入学後自分でロードバイクを購入し、北海道までの自転車旅行をしてからはどっぷりとのめり込んでしまい、今では自転車に乗る機会を作るためにあえてキャンパスから13km離れたところにアパートを借りて、毎日自転車通学をしています。ランニングも少しずつやるようになってきたのですが、自転車通学のお陰で心肺が鍛えられていたためか、去年出場したフルマラソンでは3時間を約30秒だけ切ることができました。

最近山にも目覚めてしまい、2年前から京都の山岳会に所属し始め、現在休日は暇さえあれば山に行くような生活を送っています。縦走、岩登り、沢登り、雪山、アイスクライミングと、様々な角度から山を楽しんでいます。(写真⑨)

来年から新横浜で働くことになり関西は離れてしまうのですが、折角ご縁があり関西慶應寮和会にお邪魔させていただくことができたので、今後できるだけ参加し続けたいと思っています。



写真⑨ 北アルプス槍ヶ岳 北鎌尾根にて
(向かって左端が柿塚さん)

V 編集後記

由良さんの訃報に接し大変悲しく、また残念に思います。由良さんには、記者にとりまして、広報に対するご指導・激励だけでなく、仕事で取り組まれていました航空機部品産業への参入(由良エアロネットワーク)について、第1回定例懇談会の講話(写真⑥)が終わった後も、折に触れて熱く話して頂きました。本当にモノづくりが好きで、その力で自社のみならず多くの中小企業を引っ張っておられるそのお姿に敬服していました。

記者も、由良さんの御意思を汲んで、関西慶應寮和会を、今後も盛り上げていく一助になりたいと思います。

気が付けば歳末になってしまいました。会員の皆様におかれましては健康には十分に気を付けて、良いお年をお迎えください。

と言う記者も、今回の定例懇談会は風邪発熱で欠席したのですが、井内幹事、兵藤幹事、宮崎幹事のご協力で新聞を無事発行することが出来ました。有難うございました。 以上